

登山・登攀の記録

北アルプス 黒部別山谷左俣 R3

日時:1986年7月30日～8月1日

メンバ:CL 河辺友好、高岸且

概要:黒部別山谷は大スラブを有する登攀要素が強い沢である。劔岳真砂沢 BC を基点とした沢として都合のいい対象となる。アプローチには雪渓の状態により大きくその難易度は変化する。この計画では、沢の多様性と個人の指向からそれぞれの足回りは、河辺は登山靴、高岸は地下足袋とした。アプローチの雪渓の通過は河辺がリード、スラブの登攀は高岸リードのチームプレーでこなすことができた。

記録

7月30日 快晴

真砂沢BC(7:30)－黒部溪谷(11:00)－大タテガ
ビン沢出合(13:00)－別山谷出合(16:20)－二俣
台地 BP(17:50)



真砂沢BCを出発し、ハシゴ谷乗越を越え、黒部溪谷に入る。ハシゴ谷乗越では京大の別山パーティに会う。新越沢出合から別山谷出合の間、日電歩道がところどころ雪渓で詰まっている。フィックスロープを頼りに微妙なバランスで側壁をトラバースし通過する。別山谷に入り左俣と右俣との間の台地にBPを置き、左俣の雪渓の偵察を行う。

7月31日 快晴

BP(6:30)－R3入口(9:30)－ルンゼ終了(16:10)
－BP(18:00)

左俣入口の雪渓は大きく割れており通過不能で、右の岩稜をアンザイレンで取付き、懸垂で谷中に戻る。雪渓を左岸から右岸へトラバースする。岩稜は逆層の上に泥が乗っていて浮石が多く、非常に悪い。R3への入口も雪渓が割れていてすぐには取付けず、右岸側壁ブッシュ帯を1.5ピッチの後、R3の谷の中へ7mの懸垂下降で降り立つ。京大

パーティは、慣れ親しんでいるようであり、割れた雪渓の中に降りて大スラブルートに取付いた。

R3はすっきりとしたスラブである。地下足袋の高岸がフリクションを効かせて快適にリード。始点と終了点以外ではほとんどピンがとれない、3級程のスラブを10ピッチ程度でR3を終了する。雨の時は溪流シューズが必須であろう。登山靴で来るところではない。

8月1日 快晴

BP(6:00)－稜線(9:30)－ハシゴ谷乗越(13:25)
－真砂沢BC(14:30) (記/河辺・高岸)



